

Contents

はじめに	3
推薦のことば	4

CHAPTER

1

CR修復の基礎知識

1 CR修復をこう考えよう	10
2 CR修復の適応範囲を考える	11
1 広がる適応範囲	11
2 臼歯部咬合面の適応範囲	11
3 臼歯部隣接面の適応範囲	14
4 歯頸部の適応範囲	15
5 前歯部の適応範囲	16
3 接着操作の基本とは	18
1 う蝕の除去	18
2 接着材料の使い分けとして	20
3 防湿に関して	20
4 エナメル質にリン酸エッチングを行うのか?	21
4 必要機材	22
1 う蝕除去	22
2 接着材料	23
3 充填用インスツルメント	23
4 防湿器具	24
5 光照射器	25
6 充填用レジン(ペーストレジン)	25
7 充填用レジン(フロアブルレジン)	26
8 隣接面充填用器具	26
9 研磨用具	28
10 その他	29
Summary	30

1	う蝕	34
1	前歯部隣接面う蝕に対して	34
2	前歯部う蝕：3級症例	36
Case 1	舌側からアプローチを行ったケース	36
Case 2	唇側からアプローチを行ったケース	38
Case 3	唇側からアプローチを行ったケース	39
Case 4	唇側の遊離エナメル質を大きく残したケース	40
Case 5	術中の歯の乾燥によりシェードを苦慮した白斑のケース	41
3	4級窩洞への考え方	43
	(1)形態について	44
	(2)色調について	46
	(3)表面性状について	47
4	4級症例	48
Case 1	充填を分けて行ったケース ... 動画 1	48
Case 2	舌側に歯質が残存しているケース	50
Case 3	切縁部の色調を考慮したケース	51
2	正中離開	53
1	審美的要求度が高い正中離開	53
2	正中離開症例	54
Case 1	軽度の離開を充填したケース ... 動画 2	54
Case 2	離開が比較的広いケース ... 動画 3	56
Case 3	歯軸を考慮して充填を行ったケース	58
Case 4	顔貌から歯軸を見たケース	60
Case 5	歯の移動も行ったケース	62
3	補綴との兼ね合い	64
1	形態，色調，適応症，経年的な変化への対応がポイント	64
2	補綴装置を含めた前歯部の充填症例	65
Case 1	単独歯補綴と調和を図ったケース	65
Case 2	補綴装置とCRで形態を改善したケース	66
Case 3	変色歯へ補綴装置とCRで対応したケース	68

4	コンポジットベニア	72
1	ラミネートベニアよりMIなコンポジットベニア	72
2	コンポジットベニア症例	73
Case 1	左右中切歯をコンポジットベニアで対応したケース	73
Case 2	矮小歯へ充填を行ったケース	74
Case 3	再治療を行ったケース... 動画 4	76
	Summary	78

CHAPTER

3

部位ごとの勘所を知る：臼歯部編

1	1 級窩洞	80
1	咬合面へのアプローチ	80
2	咬合面う蝕症例	86
Case 1	咬頭の3分の2程度残存しているケース	86
Case 2	咬頭の2分の1程度残存しているケース	88
Case 3	遊離エナメル質を残したケース	90
参考 Case	窩洞を分けて行う修復処置	92
2	2 級窩洞	94
1	CR充填で窩底部が硬化していないケース... 動画 5	94
2	辺縁の適合に関して... 動画 6	95
3	隣接面う蝕症例	98
Case 1	歯質の削合を抑えようとしたケース	98
Case 2	う蝕が隅角部近くまで到達していた症例... 動画 7, 8	100
Case 3	小臼歯の隣接面う蝕のケース... 動画 9	102
3	5 級窩洞	104
1	歯頸部へのアプローチ	104
2	歯頸部う蝕症例	109
Case 1	歯頸部う蝕のケース... 動画 10	109
Case 2	経過を見ているケース	112
	Summary	113

1	日常臨床での失敗回避に向けて	116
2	来院前のトラブル	117
	Case 1 CRと歯質との境界に段差があり，そこからう蝕になったケース	117
	Case 2 レジンの破折による二次う蝕のケース	118
3	治療中のトラブル	120
	Case 1 形態付与で左右の形態が非対称となったケース	120
	Case 2 形態が大きくなりすぎたケース	122
	Case 3 窩洞形成などへの配慮を欠いたケース	124
	Case 4 隅角部まで充填を行うケース	126
	Case 5 隣接面のう蝕を同時に充填した症例	127
	Case 6 コンタクトポイントの再現ができなかったケース	128
4	経過を見ながらのトラブル	130
	Case 1 経過のなかでトラブルを起こしたケース	130
	Case 2 接着操作の不備によりトラブルを起こしたケース	132
	Case 3 表面性状がうまく再現できていないケース	134
	Case 4 ダイレクトブリッジの脱離を起こしたケース	136
	Case 5 経過を見ながらさまざまなトラブルを経験したケース	138
	Summary	141

COLUMN

古い充填物を全部取るべし⇒ここが肝！	71
エックス線撮影および画像診断の重要性⇒ここが肝！	87
CR充填の前に軟化象牙質を取る⇒ここが肝！	91
失敗症例から学ぶことの重要性	119
長期経過症例から何を学ぶか	131

おわりに	143
索引	144